

人間も、巨大な自然のシステムの一部だ。

未来の
タイヤを想う

世界遺産④
知床

世界遺産、知床。
ここは、流水がたどりつく、世界でも最南端の地だ。
流水が運ぶプランクトンが豊富な魚介類を呼び、
川を登る鮭が山の動物たちの糧となり、
その排泄物がまた多様な植物を育てている。
いわば、陸と海が織りなす巨大な命のシステムだ。
ここでは人も、ひとつの自然に過ぎない。

住友ゴムは、自然の一員として生きていくため
まだ誰も踏み入ったことのない新たな道を歩みはじめた。
それは、まったく石油に頼らない
次のタイヤをつくり出すこと。

私たちはすでに、石油外天然資源の使用比率を
97%にまで高めた低燃費タイヤ「エナセーブ97」を開発し、
一般的なタイヤにくらべ、大幅な省エネルギーとCO₂削減に成功した。
そして2013年、「100%石油外天然資源タイヤ」の完成に向け、
代替が困難な残り3%を克服するべく挑戦を続けている。
様々な生命が支えあうこの星の仕組みを、守っていくために。

住友ゴムは、2013年
100%石油外天然資源タイヤの
発売を目指しています。



for you, for the earth

あなたのために、地球のために。



写真は、タイヤラベリング制度に適合した
ダンロップの「低燃費タイヤ」エナセーブ97です。



©写真は、日本の世界遺産、知床国立公園内にある「羅臼岳と三の沼」です。※一部CG処理をしています。

